

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱第7条第4項の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和6年度高松市若者支援協議会代表者・実務者全体会議
開催日時	令和6年10月31日（木）午前10時～午後12時
開催場所	高松市役所 13階大会議室（高松市番町一丁目8番15号）
議 事	(1) 若者支援の方向性について (2) 「高松市こども計画（仮称）」策定における意見聴取 (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	山岸委員、溝渕委員、多田委員、久保委員、谷本委員、植松委員、内海委員、松本委員、宮武委員、熊田委員、岡本委員、野崎委員、坂田委員、矢野委員、宮脇委員、藤田委員、小林委員、村尾委員、名古屋委員、内升委員、伊澤委員、島津委員
傍 聴 者	3 人 (定員 10 人)
担当課及び 連絡先	地域共生社会推進課 839—2373

審議経過及び審議結果

<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 若者支援の方向性について</p> <p style="padding-left: 2em;">若者支援協議会について事務局から説明を行った。</p> <p>【主な質疑・意見等】</p> <p>(委 員)</p> <p style="padding-left: 2em;">支援対象を「中学・高校・大学の新卒者、中退者で、所属を失い支援が途切れた、社会生活上の困難を有する者（家族含む）」に絞ることには賛成だが、支援対象の若者をどのように発見するのか。</p> <p>(事務局)</p> <p style="padding-left: 2em;">具体的な方法として、ネットワークづくりなどの方法があげられるが、今回の議案に了承が得られてから検討していきたい。</p> <p>(委 員)</p> <p style="padding-left: 2em;">支援対象を絞ることには概ね賛成だが、支援対象の若者は、自ら積極的に発信することが難しいと思われるので、待ちの姿勢ではなく働きかける方法を検討する必要</p>
--

があるように思う。

(事務局)

どう支援につなげていくか、意見を踏まえて検討したい。

(委員)

若者支援の方向性について、「ひきこもり状態になる前、若しくは、ひきこもり状態になった後の早期の支援について協議し、関係機関等の支援に繋げる」点において、ひきこもり初期段階での支援は非常に有効であると感じる。自所属では、学校卒業後の不登校だった方の支援が十分できていない点が課題であるため、福祉部門と共同で連携したいと考えている。

(事務局)

引き続き、支援機関同士の連携やネットワークづくりに努めたい。

(委員)

進路未決定で卒業した学生に対して、働く以外の選択肢を含めた情報発信が重要だと考える。また、就労支援等の支援を受けること自体が本人の劣等感につながることもあるので、就労すること以外を許容する社会の在り方につながっていくような協議ができればと考えている。

(副会長)

以前は、ニートというポジションがあったが、現在は、そのポジションが大分なくなっているように感じる。ポジションの喪失による所属がないという状況が孤独感や孤立感につながり、ひきこもり当事者のやりがいのなさや辛さにつながっているように感じた。

(委員)

若者支援の方向性には賛成だが、ひきこもることで自殺せずに済んでいる方もいると思うので、全員のひきこもりを解消させることが必ずしも良いとは言い切れない支援のデリケートさを感じた。

(委員：健康づくり推進課)

当課では、ひきこもり相談窓口の設置とひきこもり当事者のための居場所づくりの事業を行っている。卒業等で所属を失ったのち、居場所が自室しかない状態でひきこもるようになると思うので、自室以外に居場所をつくることが重要であると考え。支援対象者の発見は難しいが、居場所を通じて、支援対象者の気持ちが少し上向きになれば、色々な関係団体からの支援をいただきながら、最終的に自立につながればと考えている。

(委員)

若者支援を行うにあたり、課題に感じている部分はあるか。

(事務局)

ネットワークづくりの具体的な方法が課題であり、来年度以降、検討していきたい。

(副会長)

ひきこもりの実態が見えづらいことから支援を行う対象者がはっきりしていない状況である。また、家族の支えでひきこもり当事者が生きていられる点も無視できないが、不登校児童の家族の5人に1人が仕事を辞めているなどの報道もあり、経済的困窮に陥る場合も多い。しかし、現在のひきこもり支援は、家族の助力を基本とした支援が多いので、助力の難しい家族の支援も含め、会議の中で多面的に支援の対象者を考えていきたい。

(会 長)

ひきこもり支援というテーマは、本当に大きな課題であるため、対象を絞らなければ、現場の動きも難しいように思う。協議会には、様々な分野の方が参加しているため、実践的な経験や知恵等を交えながら、一歩ずつ状況が良くなるよう願っている。

(2) 「高松市こども計画（仮称）」策定における意見聴取

「高松市こども計画（仮称）」策定について子育て支援課が当協議会委員に意見聴取を行った。

【主な質疑・意見等】

(副会長)

「自分が幸せだと思う割合」が、ニーズ調査で87.7%とあるが、幸せだと思う理由等は分かるか。

(子育て支援課)

理由に関する設問を用意していないため、不明である。

(委 員)

「高松市こども計画（仮称）」の中で、重点的に取り組みたい部分はどこか。

(子育て支援課)

出産直後の対応や青年期の取組を重点的に取り組んでいきたい。

(委 員)

予算を考えなくて良い場合、どの取組を更に充足させたいか。

(子育て支援課)

市として優先順位をつけるのは難しいが、当課としては、放課後児童クラブの受け皿づくりを重点的にやりたい。

(会 長)

ニーズ調査では、思っていたより厳しい意見が多いように感じた。その上で、「子育てしやすいまちだと思う」と回答した割合が目標よりも低い理由について、どう考えているか。

(子育て支援課)

公園や児童館などの遊び場が少ないこと、放課後児童クラブに入れない児童が多いこと等が理由として考えられる。対応が難しいこともあるが、課題解決に努めたい。

(委員)

子どもの遊び場について、自分が子どもの頃もそうだったが、公園のマナー等、地域住民との関係性も重要になってくると感じた。

また、高校生の放課後の余暇支援を充実させることで、地域に愛着を持ち、UJIターン就職につながるのではないかと、取り組んでいる自治体もある。

(委員)

学校卒業後は支援の届きづらさがあるので、放課後余暇活動などでの情報共有も考えていきたいと感じた。

(委員)

「高松市こども計画（仮称）」にて、他課の取組もまとめられており、協働するうえでもありがたい。不登校にならないために、地域でいきいきと働く大人と触れ合ったり、住む地域の良さを知ったり、学校以外にも広い世界があることを放課後余暇活動で知ることができるのは、良いと感じた。

(副会長)

不登校対策事業でどのような取り組みをしているか。

(子育て支援課)

素案に取りまとめたとおり。

(委員)

闇バイトについて、SNSが闇バイトの中心となっている。県警では、非行防止教室で、SNSといかに安全にかかわっていくかを伝えている。

また、学校などの所属のない子どもたちの犯罪について、他支援機関と連携して対応していきたい。

(委員)

保育所入所への要件緩和などは検討しているか。

(子育て支援課)

入所要件の検討や、待機児童対策として、保育士の確保に関する施策も行っているが、難しいのが現状である。

(3) その他

事務局から次回開催予定について説明を行った。

3 閉会